

# 全国公立大学学生大会 LINK topos の支援に関する報告書

平成 28 年 3 月

一般社団法人公立大学協会 公立大学の学生交流に関するワーキンググループ

## 目次

本報告書について	3
1 公立大学学生ネットワークについて	4
(1) 公立大学学生ネットワーク発足までの経緯	
(2) 構成員、主な活動及び活動の目的	
2 全国公立大学学生大会 LINK topos の開催概要	6
(1) 平成 25 年度	
(2) 平成 26 年度	
(3) 平成 27 年度	
3 全国公立大学学生大会の意義と今後	12
(1) 全国公立大学学生大会に参加することの意義	
(2) 全国公立大学学生大会から派生した活動	
1) 大学での活動	
2) 地域での活動	
(3) 公立大学学生大会の今後	
所感	15
委員名簿／開催実績	
平成 25 年度 公立大学学生ネットワーク支援に関する作業部会	16
平成 26 年度 公立大学学生大会に関する作業部会	17
平成 27 年度 公立大学の学生交流に関するワーキンググループ	18
<資料編>	
平成 25 年度 公立大学学生大会 LINK topos 報告書	21
平成 26 年度 公立大学学生大会 LINK topos 報告書	35
平成 27 年度 公立大学学生大会 LINK topos 報告書	47

## 本報告書について

公立大学の学生が集うこととなったそもそものきっかけは、東日本大震災の復興支援ボランティアに関し、公立大学協会が積極的に関わったことにある。

公立大学協会は、平成 23 年 6 月、被災地支援活動への思いを高める学生を安全に被災地に派遣するために、何か連携してできる取組みはないものかという、当時の奥野武俊会長の問題意識から「東日本大震災の復興支援についての懇談会」を被災県にある岩手県立大学を会場として開催した。この会議において、岩手県立大学を拠点とした活動の方向性が示されたとともに、その活動を進めるために、会員校の教員を委員とする「東日本大震災復興学生ボランティア等に関する作業部会」を設置することが決定された。以後、作業部会は、公立大学学生ボランティアの送り出し体制の整備と、受け入れ側との調整を行うとともに、ボランティア活動を被災地支援の体験学習と位置づけ、その助言等に当たることになった。

活動を行った学生たちは、このボランティア活動の実績と成果を公立大学学長会議特別シンポジウムに持ち寄り、学長との間で、活発に意見交換を行った。

シンポジウムに参加した学生は翌年も集い、続く平成 25 年度からは「公立大学学生ネットワーク」（以下、学生ネットワーク）として組織化され、学長会議に時期を合わせて「全国公立大学学生大会 LINK topos」（以下、公立大学学生大会）を開催することになった。学生の復興ボランティア活動や地域に関わる多様な活動の交流の成果は、引き続き学長会議の場で報告され、学生と学長の交流は続けられた。

こうした学生の活動への助言は、先の作業部会から形を変え、委員を交代しながらも、公立大学の教員の連携によるワーキンググループによって継続されてきたが、公立大学学生大会の開催も今年で 3 回目となったことから、公立大学学生大会の開催の経緯や、内容、助言を行う上での課題も含めて簡単にまとめ、今後に向けての引継ぎ資料としたいとの思いで、本報告書を作成した。なお、学生ネットワークが毎年作成している詳細な報告書を、本報告書の資料編に収録した。

報告書の末尾には、当初から一貫して、大会に関わり学生へ助言してきた佐々木民夫委員（岩手県立大学）に、委員としてのこの間の所感をコメントいただいたので、ご覧いただければ幸いである。

## 1 公立大学学生ネットワークについて

### (1) 公立大学学生ネットワーク発足までの経緯

#### 公立大学の連携のきっかけとなった被災地の復興支援

「本報告書について」でも述べたとおり、平成 23 年 3 月の東日本大震災の発生後、学生の復興支援活動に対する思いの高まりが全国的に見られた。しかし、被災地の状況確認は容易でなく、安全面に配慮した学生派遣を行える状況ではなかった。

同年 6 月、被災地への学生派遣の仕組みの構築について、公立大学協会として協議することを当時の奥野武俊会長が呼びかけ、11 大学から学長をはじめとした教職員が岩手県立大学に集った。その後、設置された「東日本大震災復興学生ボランティア等に関する作業部会」により、被災地への学生派遣の仕組みが検討された。作業部会による検討の結果、岩手県内の復興支援プロジェクトである「いわて GINGA-NET」に対し、公立大学の学生を夏季休暇中に派遣することとし、公立大学協会から会員校に参加を呼びかけることとなった。大学で参加者をとりまとめ学生を派遣した 10 大学のほか、多くの公立大学の学生が個人で同プロジェクトに参加した。

なお、同プロジェクトへの派遣の際に、作業部会は参加学生に対して復興支援活動の教育的効果を検証するためアンケート調査を実施し、報告書に取りまとめている。報告書によれば、「本プロジェクトのプログラムは積極的なコミュニケーションが求められるものであった。そのため、活動に参加した学生は主体的・能動的な意欲及び能力が向上し、その結果、中教審答申『学士課程教育の構築に向けて』に示される学士力の向上に結び付いた」とされている。

#### 公立大学学生が復興支援活動を公立大学学長会議にて報告

「いわて GINGA-NET」への学生派遣による復興支援活動を受け、公立大学協会は、平成 23 年 10 月に東日本大震災復興支援学生ボランティアの体験交流会「車座シンポジウム」を開催した。同年 11 月の公立大学学長会議特別シンポジウムには全国の公立大学学生が参加し、復興支援活動を報告することとなった。

前述の作業部会報告書には「(このシンポジウムに参加した) 学生から大学間の学生交流の場を提供してもらいたい等の提案を受けた」と、公立大学学生の交流の場に関する提案がなされた。

#### 学長会議特別シンポジウムへの学生の参加

翌24年11月に静岡県立大学で開催された学長会議では、前述の報告書における公立大学学生の交流の場についての提案を受けた形で、学生によるワークショップが学長会議と並行開催された。その後の学長・学生合同特別シンポジウムでは、ワークショップの成果発表に続き、「被災地支援や地域防災に果たす大学と学生の役割」をテーマにディスカッションが行われた。この場に参加した24大学45名の学生から、シンポジウムやワークショップで示された地域防災活動及び被災地支援に関する課題に学生の立場で取り組むために引き続き交流を図りたいと主体的に声が上がり、これが公立大学学生ネットワーク（以下、学生ネットワーク）の発足につながった。

なお、この時に行われたワークショップは、4名の教員チームによりコーディネートされた。このチームが後に述べる作業部会、さらに本ワーキンググループ（以下、WGとする）へと引き継がれている。

## （２）構成員、主な活動及び活動の目的

学生ネットワークは、被災地支援のほか、地域防災や福祉支援等のボランティア活動を地域で行う公立大学の学生を中心として構成されている（メンバーは平成28年1月現在で22大学35名）。公立大学学生大会を年に1回開催し、その企画、運営を中心とした活動を展開している。活動の目的については、平成26年度公立大学学生大会開催報告書によれば、以下の2点とされている。

- ① 各大学の地域貢献活動の事例や公立大学の役割などを学び、公立大学の存在意義を考え、意見交換すること。
- ② 大会での学びを各大学や地域に還元させ、公立大学の地域貢献活動の一助とすること。

①の目的については、公立大学学生大会を開催することにより実現されている。

②の目的についても、公立大学学生大会に参加した学生が全国各地で新たな活動を展開しており、徐々に果たされつつある。②の目的に関する活動のいくつかについては、後の「3（2）全国公立大学学生大会から派生した活動」に紹介する。

## 2 全国公立大学学生大会 LINK topos の開催概要

ここでは、我々WGが関わってきた公立大学学生大会（学長会議との合同セッション含む）のスケジュールと主な内容を簡単に紹介する。プログラム及び内容の詳細は、学生が作成した大会の報告書（資料編に収録）に掲載されている。

公立大学学生大会は、平成25年に岩手県立大学で初めて開催された。翌26年以降には教職員にも参加を呼びかけ、参加者数を増やしている。

プログラムは、ワークショップやシンポジウム、ポスターセッション等により構成され、学生が日頃実践するボランティアや地域貢献活動、地域をフィールドとした教育活動等の事例について、学生同士が経験を交流できる貴重な機会となっている。

### （1）平成25年度（10月12日（土）～13日（日）／岩手県立大学）

学生ネットワークが初めて企画した、平成25年度の公立大学学生大会には、全国から34大学81名の学生が集まった。彼らは、自分たちが日頃実践している地域での活動等の事例をポスター形式で持ち寄り発表した後、ワークショップにより今後のアクションプランを策定した。そのうち選ばれた4プランが、学長会議特別シンポジウムにおいて、学長に向けて発表された。

この年度に、本WGの前身となる「公立大学学生ネットワーク支援に関する作業部会」が公立大学協会第1委員会に設置された。

### スケジュール

10月12日（土）

10：00～11：40	顔合わせ
11：40～12：20	昼食
12：20～13：00	ポスターセッション
13：00～14：40	ワークショップ「学生が考える地域の未来」
15：00～17：00	特別シンポジウム（合同セッション） 大学／学生と地域コミュニティの協働をデザインする ～学生の地域（復興支援・防災）活動と、COCがもたらす大学教育の新たな展開～  第1部 学生ワークショップ成果発表 司 会：佐々木民夫岩手県立大学高等教育推進センター長 第2部 パネルディスカッション パネリスト：里見朋香 文部科学省高等教育局大学振興課長 木苗直秀 静岡県立大学長（一般社団法人公立大学協会会長） 蓮見孝 札幌市立大学長／伊藤忠通 奈良県立大学長 村嶋幸代 大分県立看護科学大学長 司 会：中村慶久 岩手県立大学長（一般社団法人公立大学協会副会長）
17：30～19：30	情報交換会

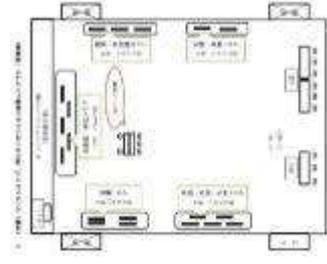
10月13日（日）

9：00～12：00	ワークショップ「今後の学生ネットワーク活動」
------------	------------------------

## 主な内容

### ①ポスターセッション

地域防災活動・被災地支援活動や地域貢献活動等を行う学生が集い、学長会議特別シンポジウムに先立ち、ポスターセッションを行った。学長に日頃の活動を直接アピールできる場とあって、熱心に訴えかける光景が見られた。



ポスターの内容は「地域貢献活動（ボランティアを含む）」「地域に関する研究活動」「地域防災活動・被災地支援活動」のいずれかを学生が選んだ。ポスターの掲示は、近隣の大学に通う学生同士の交流を図るために、地区ごとに配置された。

### ②ワークショップ

ワークショップは2日間にわたり行われた。

1日目は「学生が考える地域の未来」をテーマに、目指す地域の未来像に向けグループに分かれてアクションプランを策定し、ポスター形式にまとめた。相互投票によって選ばれた優秀プランが、後の特別シンポジウムで発表できるとあって、投票結果の発表時には大きな盛り上がりを見せた。

初めて会った者同士が経験を持ち寄り、意見を摺合せ新たなプランを生み出すプロセスを体得できた貴重な機会であった。



1日目のワークショップは岩手県立大学の体育館で行われ、14のアクションプランが策定された。2日目は、1日目で策定したアクションプランについて、他のグループとも意見を交わしながら具体化に向けブラッシュアップさせた。

### ③特別シンポジウム

本シンポジウムは文部科学省後援のもと一般公開とされた。

テーマは「大学／学生と地域コミュニティの協働をデザインする～学生の地域活動と、COCがもたらす大学教育の新たな展開～」。ディスカッションでは、学生からも「公立大学の存在意義について学べるいい機会となった」との発言があり、学生にとっても公立大学の構成員としての自覚を高める機会となった。



第1部では、学生が行ったワークショップの成果を4団体が発表した。第2部では、札幌市立大学、奈良県立大学、大分県立看護科学大学の各学長によるCOC採択事例の発表を共に聞いた。

(2) 平成26年度(10月11日(土)～12日(日)／兵庫県立大学(神戸商科  
キャンパス及び防災教育センター))

平成26年度公立大学学生大会には、学生のほか、教職員・卒業生も含め合計104名の参加があった。大会テーマ「大学・地域における学生・教員・職員の理想的な協働を考える」に沿って、立場の異なる学生、教員、職員の三者がそれぞれの経験・知見に基づいてアクションプランをともに組み立てることによって、相互の理解や交流を深めることができたと思われる。ポスターセッション及び情報交換会の時間には、学長と積極的に意見交換する学生の姿が多く見られた。

**スケジュール**

10月11日(土) 兵庫県立大学(神戸商科キャンパス)

10:00～10:45	オープニング
10:45～11:45	ワークショップ 「大学・地域における学生・教員・職員の理想的な協働を考える」
12:15～13:15	昼食／ポスターセッション(学長との交流)
13:30～15:15	シンポジウム 公立大学と地域コミュニティの相互理解と連携 ～地域での実践的事例からその理想的な形を探る～  第1部 基調講演 地域での実践事例紹介 講演者：初田直哉 兵庫県立大学大学院生 山本亜胡 岩手県立大学学生 辻辰幸 神戸市西区学園西町連合自治会長 第2部 パネルディスカッション パネリスト：基調講演者3名 司 会：島谷奎汐 神戸市看護大学学生 井上幹太 兵庫県立大学学生
15:30～16:30	ワークショップ再開
16:30～17:00	ワークショップ中間報告会
17:30～19:30	情報交換会(学長との交流)

10月12日(日) 兵庫県立大学防災教育センター

10:00～12:00	ワークショップ再開
13:00～14:30	アクションプラン全体発表
14:50～15:40	活動の振り返り
15:40～16:20	クロージング

## 主な内容

### ①ポスターセッション

日頃行っている地域貢献活動等に関するポスターを持ち寄り発表した。大学COC事業に採択されている大学からは、「地域に関する研究活動」をテーマとした発表が多く見られた。

学生だけでなく参加した職員も、学長に対し積極的なコミュニケーションを図っていた。



今回のポスター発表には、教職員の参加もあった。ポスターの内容は「地域貢献活動（ボランティアを含む）」「地域に関する研究活動」「その他の地域活動」のいずれかであった。

### ②シンポジウム

シンポジウムは公立大学学生大会参加者のみで開催した。学生、教員、職員、地域住民の相互理解、協働に向けて、地元での事例発表に続き、パネルディスカッションが行われた。

地域活動を通じた協働について、学生からも積極的な意見・提案がなされた。



本シンポジウムは学生により企画され、神戸市内で地域活動を行う大学院生や大学の地元の自治会長にもご登壇いただいた。学生が地域コミュニティに入り込む地域貢献の実践的な事例を共有するとともに、協働による地域の課題解決に向け、ヒントを持ち帰ることができた。

### ③ワークショップ

「大学・地域における学生・教員・職員の理想的な協働を考える」をテーマに、ワークショップが開催された。2日間にわたり、学生・教員・職員が合同でチームを組み、2日目の午後にはそれぞれ作成したアクションプランを発表した。

異なる大学の職員と学生との交流は、互いの地域活動に刺激をもたらしたのではないだろうか。



ワークショップには、卒業生2名の参加もあった。2日目のアクションプラン発表会には、奥野武俊大阪府立大学長（当時）、清原正義兵庫県立大学長も駆け付け、学生にエールを送った。

### (3) 平成27年度(10月10日(土)～12日(祝・月)／愛知県青年の家及び名古屋市立大学)

平成27年度公立大学学生大会は、合計3日間のスケジュールで行われ、学生・教職員・卒業生の合計93名の参加があった。大会テーマは「地域を考える学生・教員・職員の理想的な協働体系と地域課題の解決に向けた取り組み」とされ、3日間にわたり、テーマに沿ったポスターセッション、ワークショップ、シンポジウム等のプログラムが行われた。

公立大学長と公立大学学生大会参加者の交流は、学長・学生合同セッション、ランチ交流会及びポスターセッションの場で図られた。ポスターセッション会場には、文部科学省塩見みづ枝大学振興課長も訪れ、学生の発表に耳を傾けていた。

#### スケジュール

##### 10月10日(土) 愛知県青年の家

16:30～17:30	ポスターセッション準備
19:10～20:30	参加者交流会／ポスターセッション

##### 10月11日(日) 愛知県青年の家

9:30～12:00	ワークショップ 地域の課題に対して大学が一体となった解決施策を考える (テーマは 防災意識の啓発／地域コミュニティの創造 のいずれかから選ぶ)
13:00～13:50	過去の大会で生まれた取り組みについて(事例発表) 岩手県立大学「地域創造学習プログラムについて」 神戸市看護大学「地域支援を行う学生団体の創設」
14:00～15:00	シンポジウム 「名古屋市立大学の地域貢献活動について」
15:15～18:00	ワークショップ再開
19:00～20:45	アクションプラン発表会及び投票による優秀プランの選出

##### 10月12日(祝・月) 名古屋市立大学

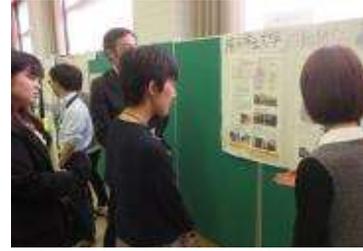
10:00	ポスターセッション準備
11:00～12:00	学長・学生合同セッション ○ 大会報告 ○ 優秀アクションプラン発表 ○ 学生ネットワーク実績報告
12:00～13:30	ランチ交流会／ポスターセッション
13:45～15:15	大会振り返り／クロージング

## 主な内容

### ①ポスターセッション

1日目に学生のみで行った第1部、2日目の昼に学長とのランチ交流会に続いて行われた第2部の2部構成で行われた。

第1部には「もっと聞きたかったことがあり、時間が足りなかった」との感想が寄せられた。



ポスターセッションは、第1部（左）、第2部（右）とも活発な質疑が行われていた。第2部には、文部科学省塩見大学振興課長、君塚課長補佐、南公立大学係主任も訪れ、学生の説明に熱心に耳を傾けていた。

### ②ワークショップ

2日目にはワークショップが開催された。参加者が選んだ「防災意識の啓発」「地域コミュニティの創造」のいずれかのテーマに沿って、学生・教員・職員が合同で組んだチームがアクションプランを策定。最後に全13グループが発表した。年々、実現性が高いアクションプランが練られていると感じる。



ワーキンググループ委員の挨拶の後、ワークショップが行われた。相互投票によって選ばれた優秀事例は、翌日の学長・学生合同セッションで発表した。

### ③シンポジウム（1日目）

1日目のシンポジウムは、清原正義会長（兵庫県立大学学長）の挨拶の後、過去の公立大学学生大会をきっかけにして生まれた地域活動と、学長会議開催校である名古屋市立大学の学生による地域貢献活動の事例発表が行われた。学長会議開催校の取組が学べる貴重な機会である。



名古屋市立大学からは、医学部生による地域活動と、医学部・薬学部・看護学部の学生の連携による地域をフィールドとした講義について、説明があった。

### ④学長・学生合同セッション

合同セッションは、第1回から公立大学学生大会に関わる佐々木民夫 WG 委員からのこれまでの経緯を含めた挨拶で幕を開けた。ワークショップの成果発表に続き、過去の公立大学学生大会から生まれた地域活動の代表事例として、岩手県立大学学生から「地域創造学習プログラム」の発表があった。



ワークショップ成果発表では、職員・学生合同チームが選ばれ、学長の前で発表を行った（左）／意見交換の時間では、学長から地域活動の継続性についての課題が投げかけられた。質問を受けて卒業生が応える場面も（右）

### 3 全国公立大学学生大会の意義と今後

ここまで述べてきた、学生ネットワークの発足の経緯及び公立大学学生大会の概要を踏まえ、ここでは、公立大学学生大会の意義を述べ、公立大学学生大会から派生した活動について説明するとともに、WG会議における今後の公立大学学生大会についての意見をまとめる。

#### (1) 全国公立大学学生大会に参加することの意義

学生は公立大学学生大会への参加を通し、それぞれが行う地域活動について情報共有を図り、互いに学び合うことによって、自分たちの日常の地域活動を振り返り、より地域に効果をもたらす活動につなげようとしている。

学生が作成した大会の報告書（資料編に収録）の参加者アンケート結果によれば、8割近くの学生が自主的に参加したとのことである。したがって、アンケート回答は全体を通して肯定的・前向きな回答である前提に立ったとしても、「地域活動の経験により自身の成長を感じているか」の問いには100%近い肯定の回答が得られており、地域活動の経験が学生の成長に及ぼす影響は小さくないと思われる。また、他の設問において「地元の課題についてもっと目を向けるべき」と、これまで以上に地域課題の解決に深く取り組みたい旨の感想も寄せられており、公立大学学生大会への参加は、学生が日頃関わる地域活動への意識を高める意義深い取り組みであることが改めて確認できた。

#### (2) 全国公立大学学生大会から派生した活動

公立大学学生大会に参加した学生が中心となって実を結んだ学内や地域での活動について、大学のホームページの掲載内容や、過去の大会における報告の内容から、簡単ではあるが、3つの事例を以下に紹介したい。

##### 1) 大学での活動

学内における「LINK topos」の開催（大阪府立大学、岩手県立大学）

大阪府立大学では、「学生・教職員が考える地域の未来」をテーマとして、平成25年1月に「LINK topos in 大阪府立大学」が開催され、教職員25名が地域活動における教職員の協働の可能性についてワークショップ形式により議論した。

岩手県立大学では、平成26年4月に第1回学内LINK toposが、新入生を含めた学生のためのワークショップと、教職員によるワークショップの2部構成で実施された。平成27年度にも3回開催されている。この学内LINK toposは、学生自らが新入生に地域創造学習プログラム（後述）をPRする機会となった。



「Link topos in 大阪府立大学」告知ポスターが全学の至るところに貼られた。

なお、今後は、公立鳥取環境大学及び高知県立大学においても、同様の機会が企画される予定である。

### 地域創造学習プログラム（岩手県立大学）

地域創造学習プログラムは、平成25年度から岩手県立大学において1年次の学生を対象に行われている任意参加型の課外学習である（※）。学生に1泊2日の地域をフィールドとした学びを体験させることにより、地域の魅力を発見すること、地域に対する課題意識を醸成することを目的としている。

平成26年度より、公立大学学生大会に参加した学生が企画を行い、参加の経験をプログラムの企画及び当日のコーディネートに活かしている。教職員は学生のサポートに回る。地域における教育プログラムに学生の視点を取り入れたい大学側の思いと、教職員と協働しながら「地域に」公立大学学生大会の成果を還元したいとの学生側の思いがマッチングできた事例であるといえる。

（※文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）における取組のひとつとして、平成28年度の単位化・必修化に向け現在準備が進められている）

## 2）地域での活動

### おなかまプロジェクト（神戸市看護大学・神戸市外国語大学）

公立大学学生大会で生まれたアイデアが実際に地域で実践された事例もある。

「おなかまプロジェクト」は、平成25年度公立大学学生大会のワークショップにおいて、学生投票により優秀賞に選ばれ、学長会議特別シンポジウムで発表されたプランのうちのひとつである。

発表した林優名さん（神戸市看護大学4年・当時）は、神戸市外国語大学の学生とともに、アイデアを神戸市西区学園西町連合自治会に持ち込み、一緒に鍋を囲む「おなかまプロジェクト」を実現させた。

このプロジェクトの様子は、平成26年度公立大学学生大会のシンポジウムにおいて、自治会長の辻辰幸さんより報告されている。



学生が地域住民との交流を図ることができた貴重な体験となった。

### **(3) 公立大学学生大会の今後**

公立大学学生大会に関するWG会議では、今後の公立大学学生大会のあり方について意見交換を行ってきた。以下に「開催形態」「地域連携組織に所属する教職員への参加呼びかけ」「各公立大学の支援」の3点について述べる。

#### **(開催形態)**

公立大学学生大会は、「(1) 全国公立大学学生大会の意義」でも述べたとおり、参加学生の地域活動への意識を高める意義深い取組であると考えている。学生たちは、代表の交代や運営の引継ぎの難しさを感じているものの、公立大学学生大会の引き続きの開催を望んでおり、WGとしても支援していきたいと考えている。

過去3回の公立大学学生大会は、学長会議の日程と合わせて開催したことから、公立大学長と学生が公立大学学生大会の成果を共有でき、学生からも好評であったと思われるが、今後は、学生がより自主的に公立大学学生大会の企画・運営を行うためにも、学長会議との並行開催ではない開催形態も考えられてもよい。

#### **(地域連携組織に所属する教職員への参加呼びかけ)**

公立大学学生大会の発表は、各公立大学の地域連携組織に所属する教職員にも参考になる内容であり、参加を呼びかけたい。

また、公立大学学生大会に参加した学生が成果発表を学内で行う機会があれば、学長はじめ教職員の皆様には積極的な参加をいただき、温かい励ましをいただけたら幸いである。

#### **(各公立大学の支援)**

公立大学学生大会への参加については毎年100名近い参加があるものの、大学数としては30大学程度にとどまっている。参加学生へのアンケート結果によれば、参加した学生の9割近くは旅費等の支援を受けての参加となっている。例えば後援会など学生活動を支援する組織から、資金面の援助について検討いただければ、参加者が増える可能性はある。

## 所感

公立大学協会が、東日本大震災における学生の復興支援ボランティア活動の支援の展開として、公立大学に学ぶ学生が自主的に立ち上げた「公立大学学生ネットワーク」と連携して、学長会議に合わせて開催してきた全国公立大学学生大会「LINK topos」について、その助言に当たってきたワーキンググループとして、3回に及ぶ公立大学学生大会の概要を概括し、その意義と今後のあり方につき、まとめることができました。

公立大学学生大会の今後については、開催形態や教職員への参加の呼びかけ、そして各公立大学の支援のあり方など、課題はあるものの、参加する学生がそれぞれの専門領域を活かして、あるいはその違いを超え、教員・職員との協働を通して、地域課題に真摯に向き合おうとする姿は、公立大学の意義とそのあり方を明確に示していると改めて確認できるかと思えます。また、公立大学学生大会の参加をきっかけとして生まれた、大学における地域協働、地域貢献の新たな活動を展開している事例からは、公立大学に学ぶ学生の地域に向き合う自主的・能動的な活動実践を知ることができますが、それらは公立大学学生大会の成果として考えられるかと思えます。

地方創生、地域貢献と大学のあり方が問われている今、公立大学協会が支援し、取り組んだ公立大学学生大会は、公立大学の大きな特徴であり、これまでの成果と課題とを踏まえ、継続的な連携・支援が求められていると考える次第です。

公立大学の学生交流に関するワーキンググループ委員  
佐々木民夫（岩手県立大学高等教育推進センター長）

## 平成 25 年度 公立大学学生ネットワーク支援に関する作業部会

### 委員名簿

	所属・役職	氏名
主 査	岩 手 県 立 大 学 高 等 教 育 推 進 セ ン タ ー 長	佐 々 木 民 夫
委 員	宮 城 大 学 学 生 部 長 ・ 教 授	徳 永 幸 之
〃	静 岡 県 立 大 学 副 学 長	奥 直 人
〃	大 阪 府 立 大 学 副 学 長	竹 内 正 吉
〃	大 阪 市 立 大 学 副 学 長	宮 野 道 雄
〃	兵 庫 県 立 大 学 教 授	森 永 速 男
〃	北 九 州 市 立 大 学 教 授	田 部 井 世 志 子
〃	公 立 大 学 協 会 事 務 局 長	中 田 晃

### 開催実績

日時・会場	議題
第 1 回 6月6日（木）14:00～17:00 公立大学協会事務局会議室（港区 虎ノ門）	(1) 公立大学学生ネットワーク支援作業部会の設置について (2) 合同シンポジウムの開催について ○ 学生ボランティア活動と大学教育の位置づけ ○ 地域に向き合う人材育成 (3) 学生とともに進める教育改革について (4) 今後の取組みについて
第 2 回 7月1日（月）14:00～17:00 公立大学協会事務局会議室（港区 虎ノ門）	(1) 学長会議合同シンポジウムの開催内容について (2) 今後の作業部会の取組みについて
第 3 回 10月12日（土）9:00～9:45 岩手県立大学高等教育推進センター	(1) 平成 25 年度全国公立大学学生大会について (2) その他 ○ 学生の地域活動と大学教育の位置づけについて ○ 大学間連携（防災・減災教育、地域活動における 単位互換、教員交流）

## 平成 26 年度 公立大学学生大会に関する作業部会

### 委員名簿

	所属・役職	氏名
主 査	兵 庫 県 立 大 学 教 授	森 永 速 男
委 員	岩 手 県 立 大 学 高 等 教 育 推 進 セ ン タ ー 長	佐 々 木 民 夫
〃	大 阪 府 立 大 学 副 学 長	竹 内 正 吉
〃	大 阪 市 立 大 学 副 学 長	宮 野 道 雄
〃	公 立 大 学 協 会 事 務 局 長	中 田 晃

### 開催実績

日時・会場	議題
第 1 回 10月11日（土）10:30～12:00 兵庫県立大学神戸商科キャンパス （神戸市西区）	（1）平成 26 年度公立大学学生大会について （2）次年度以降の公立大学学生大会の活動について
第 2 回 10月12日（日）10:00～11:30 人と防災未来センター（神戸市中 央区）	（1）学長会議合同シンポジウムの開催内容について （2）今後の作業部会の取組みについて
第 3 回 12月8日（月）16:00～18:00 公立大学協会事務局会議室（港区 虎ノ門）	（1）平成 26 年度公立大学学生大会について（報告） （2）今後の公立大学学生大会の支援等について （3）その他

## 平成 27 年度 公立大学の学生交流に関するワーキンググループ

### 委員名簿

	所属・役職	氏名
主 査	兵 庫 県 立 大 学 教 授	森 永 速 男
委 員	岩 手 県 立 大 学 高 等 教 育 推 進 セ ン タ ー 長	佐 々 木 民 夫
〃	名 古 屋 市 立 大 学 副 学 長	伊 藤 恭 彦
〃	高 知 県 立 大 学 学 長 特 別 補 佐 地 域 教 育 研 究 セ ン タ ー	清 原 泰 治
〃	北 九 州 市 立 大 学 教 授	田 部 井 世 志 子
〃	公 立 大 学 協 会 事 務 局 長	中 田 晃

### 開催実績

日時・会場	議題
第 1 回 7月3日（金）10:00～12:00 名古屋市立大学桜山キャンパス （名古屋市瑞穂区）	（1）公立大学の学生交流に関するワーキンググループの運営について （2）公立大学学生大会の開催経緯について （3）平成 27 年度公立大学学生大会（10/10～10/12 開催）について （4）その他
第 2 回 10月11日（日）10:00～11:30 愛知県青年の家（岡崎市美合町）	（1）公立大学学生大会（10/10～10/12 開催）について （2）今後の学生大会について（意見交換）
第 3 回 12月18日（金）15:00～17:00 スタンダード会議室（港区虎ノ門）	（1）平成 27 年度公立大学学生大会について（報告） （2）公立大学の学生交流に関する報告書（構成案）について （3）公立大学学生大会開催に関する課題、課題への提案

<資料編>

※ Web掲載版では省略